

財務省における安全に資する科学技術の取組状況について 「税関における検査機器の現状について」

平成17年11月22日

財務省関税局

税関の業務と使命 「適正かつ迅速な通関」

徴税官庁

- ・関税、消費税等の徴収
- ・トン税、特別トン税の徴収

平成16年度収納額
約4兆3000億円

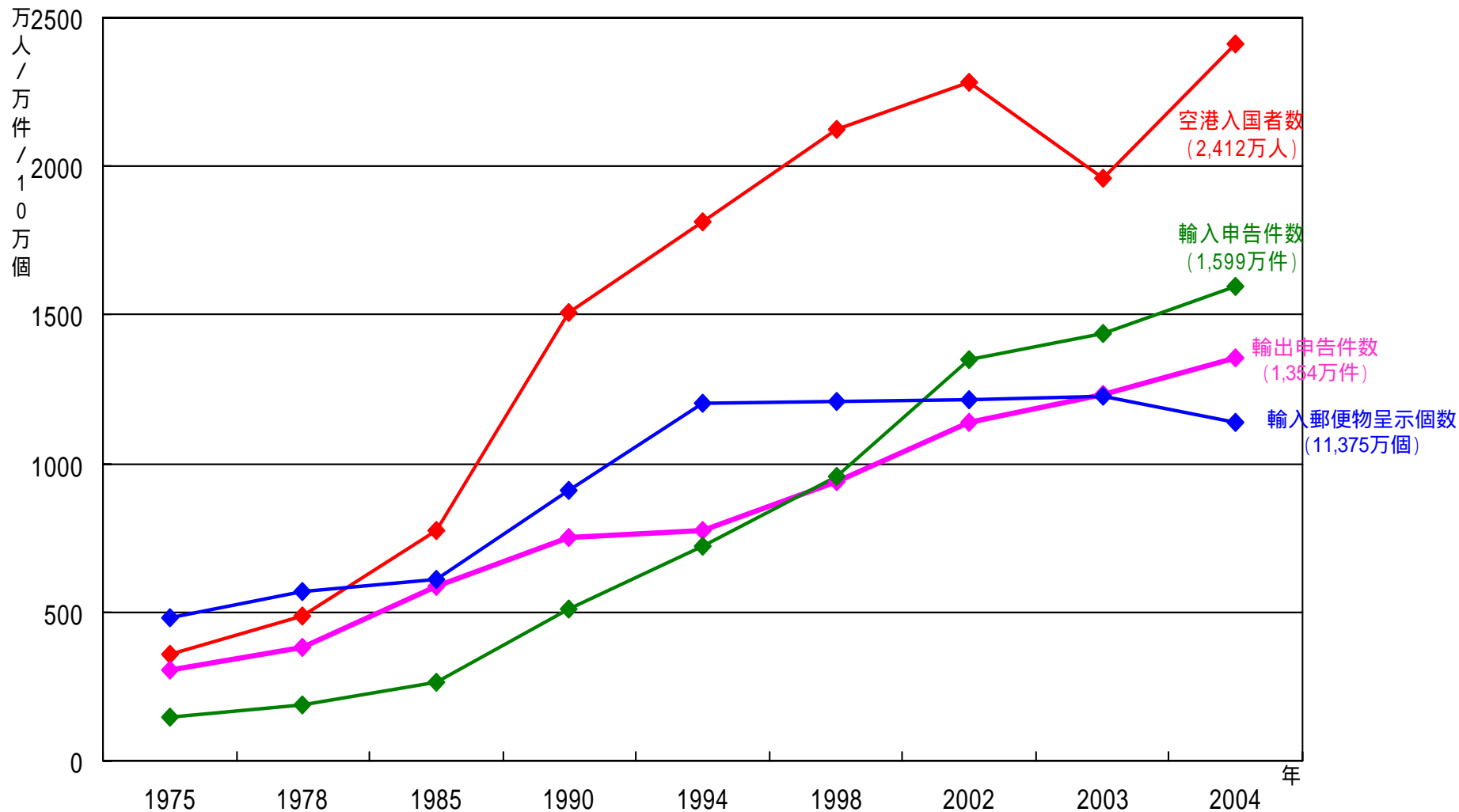
- ・事後調査

水際取締り官庁

- ・不正薬物水際取締り
(年間約1トンの水際摘発)
- ・銃器爆発物等水際取締りとテロ対策^(注)
- ・輸出入規制(環境保護、核不拡散等規制)の水際取締り
- ・知的財産侵害物品の水際取締り

(注)海上コンテナ安全対策(CSI)の実施、事前旅客情報システム(APIIS)の実施、大型X線検査装置等の活用強化など

税関業務の推移



	1975年	1978年	1985年	1990年	1994年	1998年	2002年	2003年	2004年
空港入国者数 (万人)	358	486	775	1,508	1,815	2,125	2,284	1,962	2,412
輸出申告件数 (万件)	306	380	585	749	774	941	1,136	1,234	1,354
輸入申告件数 (万件)	144	188	264	511	719	959	1,348	1,439	1,599
輸入郵便物呈示個数 (10万個)	482.5	569.4	611.6	909.1	1201.0	1210.1	1216.9	1224.2	1137.5

税関行政の変遷

○ 検査機器

□ 手続の電子化等

固定式X線
検査装置を導入

移動式X線
検査装置を導入

大型X線検査装置
を導入

車載式後方散乱線
X線検査装置
の導入予定

麻薬探知犬
を導入

爆発物探知犬
を導入

1978 79 81 85 88 91 94 97 99 | 2000 | 01 02 03 | 04 | 05 | 06

成田空港
供用開始

関西国際空港
供用開始

中部国際空港
供用開始

外郵便入事務電算処理システム (COMTIS) を導入

他省庁システムとの
インターフェース化

輸出入・港湾関連手続の
ワンストップサービス化
(シングルウィンドウ化)

事前旅客情報システム (APIS) を導入

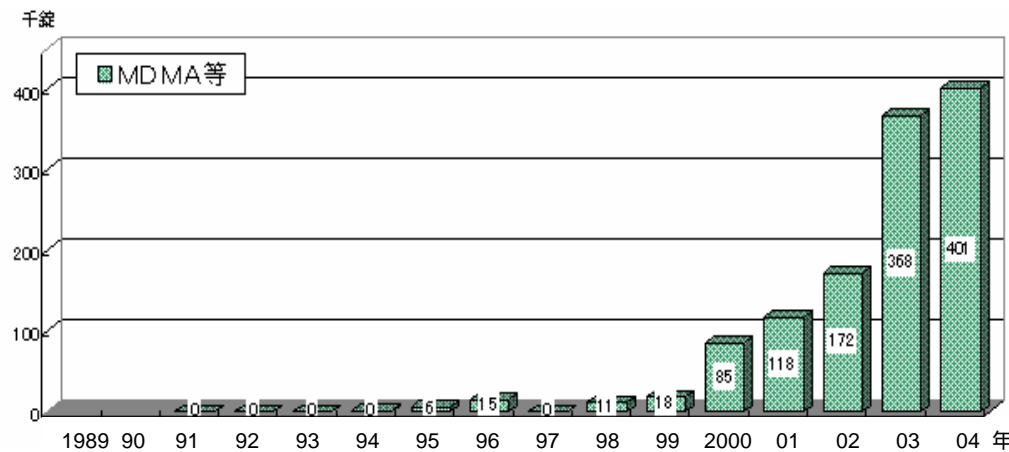
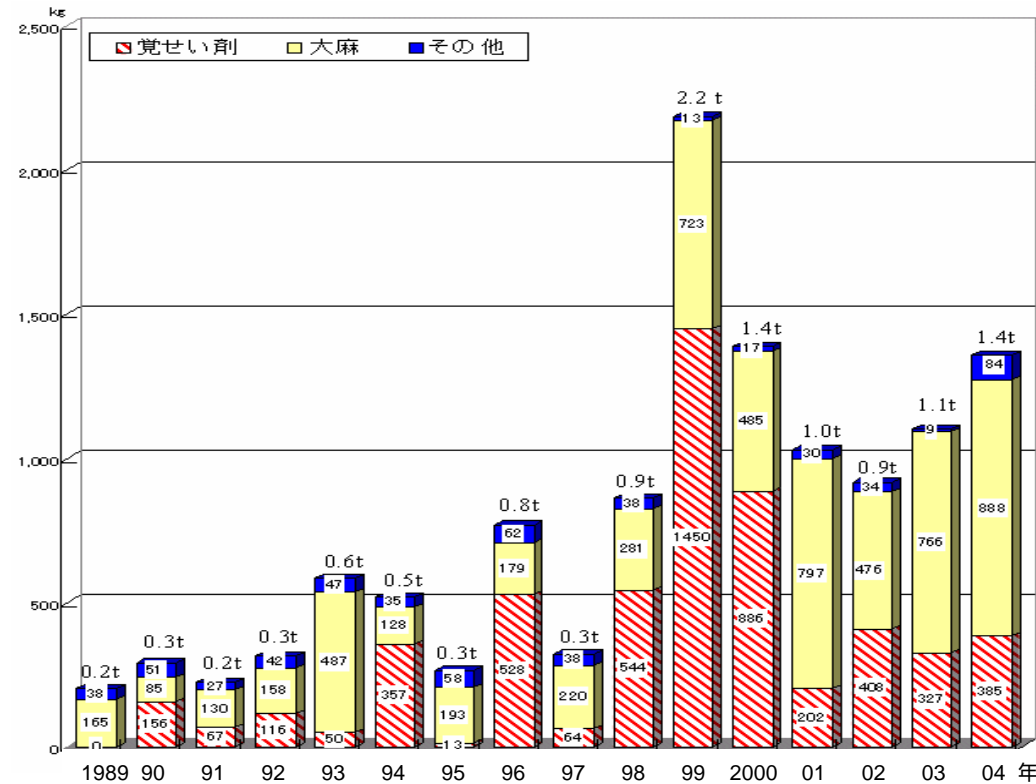
航空貨物通関情報処理システム (Air-NACCS) を導入

・海上貨物通関情報処理システム (Sea-NACCS) を導入
・通関情報総合判定システム (CIS) を導入

海上コンテナ安全対策 (CSI) を実施

税関における密輸入事犯の摘発実績(2004年)

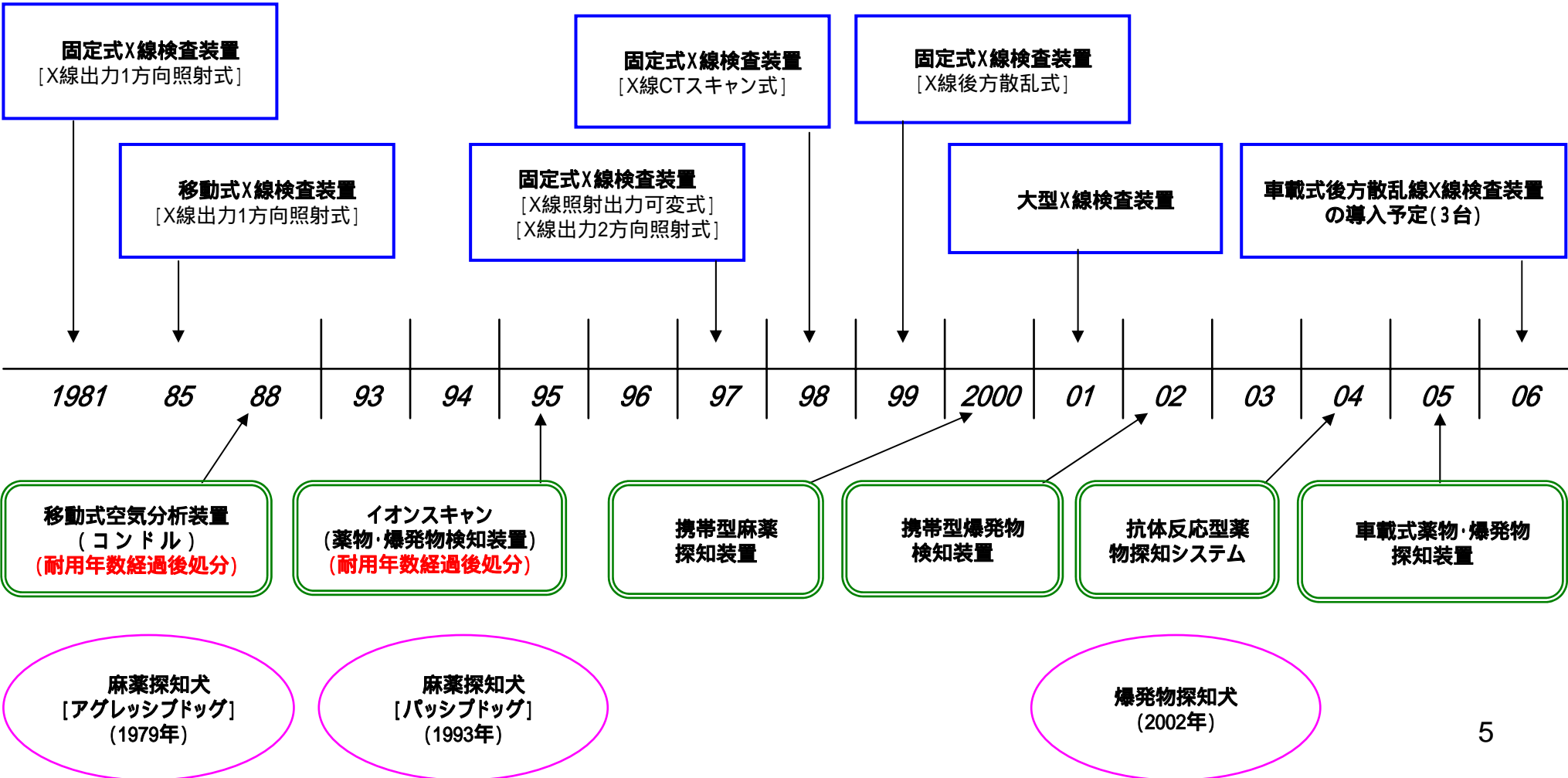
種類	年		2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	前年比
	件	kg						
覚せい剤	件		57	42	20	76	103	136%
	kg		886	202	408	327	385	118%
大麻	件		303	214	276	355	314	88%
	kg		485	797	476	766	888	116%
大麻草	件		217	166	191	233	242	104%
	kg		343	744	261	436	597	137%
大麻樹脂	件		86	48	85	122	72	59%
	kg		143	53	215	330	291	88%
ヘロイン	件		14	11	15	9	3	33%
	kg		6	5	19	5	0	0%
コカイン	件		12	7	12	11	19	173%
	kg		7	18	14	0	83	71512%
あへん	件		5	2	3	2	6	300%
	kg		5	8	2	4	1	27%
MDMA等	件		36	45	35	43	54	126%
	千錠		85	118	172	368	401	109%
向精神薬	件		89	96	89	58	63	109%
	千錠		62	90	60	16	27	165%
合計	件		516	417	450	554	562	101%
	kg		1,389	1,030	918	1,104	1,358	123%
	千錠		147	208	233	385	429	111%
参考(使用回数)	万回		3,261	1,007	1,884	1,597	2,015	126%
銃砲	件		9	2	8	9	4	44%
	丁		123	21	13	12	5	42%
銃砲部品	件		0	2	3	7	1	14%
	点		0	12	4	13	1	8%



検査機器の導入経緯

□ X線による検査機器

□ 微粒子分析等による検査機器



検査機器の現状

1. 非破壊検査(一次スクリーニング)

《貨物形態》

【主な検査機器】

《商業貨物》



【大型X線検査装置】



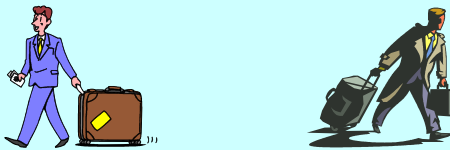
《郵便貨物》



【固定式X線検査装置】



《携帯貨物》



【麻薬探知犬】



2. 開披検査

税関職員が貨物を開披して検査を行う。

検査機器に関する懇話会の設置

最先端技術を用いて探知装置等を専門に研究・開発されている専門家から、その現状や税関検査機器への応用等について、意見・提案等をいただき、今後の税関検査機器のあり方について意見交換等を行うため、財務省関税局に「検査機器に関する懇話会」を設置する。

(参考) 懇話会メンバー

(座長) 一村 信吾 (独)産業技術総合研究所 計測フロンティア研究部門 部門長
川瀬 晃道 名古屋大学大学院工学研究科 教授
越 光男 東京大学大学院工学系研究科 教授
下井 信浩 国立東京工業高等専門学校機械情報システム専攻科 助教授
鈴木 良一 (独)産業技術総合研究所 計測フロンティア研究部門 グループ長
東原 和成 東京大学大学院新領域創成科学研究科 助教授
都甲 潔 九州大学大学院システム情報科学研究院 教授

(参考1)

国際貿易の安全保障及び円滑化のためのWCO「基準の枠組み」

(経緯)

- ・2004年 6月：WCO総会決議により「国際貿易の安全保障及び円滑化のためのWCO「基準の枠組み」」の策定を目指すことに合意。
- ・2004年12月：WCO政策委員会において「国際貿易の安全保障及び円滑化のためのWCO「基準の枠組み」」に合意。
- ・2005年 6月：WCO総会において「国際貿易の安全保障及び円滑化のためのWCO「基準の枠組み」」を採択。

(主要要素)

- ・電子媒体による事前貨物情報の国際標準化
- ・国際的に整合のとれたハイリスク貨物の選定
- ・輸出国による非破壊検知機器(大型X線検査装置等)を使用した貨物検査の実施
- ・一定の基準を満たす民間企業に対する優遇措置の明確化

関係機関との連携強化

1. 税関においては、同時多発テロ以降、我が国におけるテロ行為等を未然に防止するため、関係機関との密接な連携の下、銃砲、爆発物、大量破壊兵器等の密輸阻止を目的とした、旅客及び乗組員の携帯品、輸出入貨物、国際郵便物に対する検査の一層の強化を図っている。

2. 関係機関との取り組み
 - ・テロの未然防止に関する行動計画の策定
 - ・国際空港・港湾における水際危機管理体制の強化
 - ・船舶に対する水際取締りの強化
 - ・コントロールド・デリバリーの実施
 - ・盗難自動車の不正輸出に対する水際対策の強化